

QUARTER REPORT

第125期

中間報告書

2025年12月1日 ▶ 2026年5月31日

株主の皆さまへ

ファインケミカルの無限の可能性に向けて、
今後も研究開発活動に力を注いでまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第125期上半期（2025年12月1日から2026年5月31日まで）が終了いたしましたので、この間の事業概況をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、ロシア・ウクライナ戦争が長期化する中、米国とイランとの軍事衝突により中東情勢の緊張が高まり、事実上ホルムズ海峡が閉鎖され、サプライチェーンの混乱が発生し、地政学リスクが最大の経済リスクとなり、先行きは極めて不透明な状況にあります。

米国においては、AI投資と個人消費に支えられ経済は底堅く推移していますが、トランプ政権による関税政策の物価への影響が続き、個人消費の増加は続いています成長の鈍化が鮮明になっています。労働市場は弱く、インフレ、地政学、AIバブルなどの複数のリスクが同時進行している状況となっています。

中国では、米国の追加関税が引き下げられ、対米輸出の悪化に歯止めがかかり、米国以外の地域への輸出もEV車を中心に堅調に推移しています。政府主導の景気対策もハイテク産業を中心に投資を拡大、不動産不況が長期化し個人消費を中心とする内需の弱さが続く中、景気の下支えとなっています。

日本経済は、雇用や所得の改善、旺盛なインバウンド需要を背景に緩やかながらも景気の回復基調が継続いたしました。一方、中東情勢の影響による原油価格の上昇やナフサ等の供給不足は、景気の懸念材料となっています。

当社グループに関係の深い自動車産業においては、EV車を中心とする中国勢の台頭がありますが、国内の生産はメーカーにより大きな差はあるものの、ハイブリッド車（HEV）の需要は強く、全体では緩やかながらも回復基調にあります。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする5か年中期経営計画（第121期「2022」から第125期「2026」まで）「ACCEL 2026－革新を強力に推進し、成長を加速する」の最終年度であり、その中で掲げた経営指標の実現と次期中期経営計画への橋渡しとなる重要な節目の年と位置づけ、創業以来長年蓄積してきた技術を基盤に、

代表取締役社長

山田 秀行



当社が得意とする有機合成技術を最大限に活用し、高付加価値製品の開発を強化、受託成品の拡大、電子材料、医薬用途向け製品等成長分野での市場拡大を積極的に進めました。

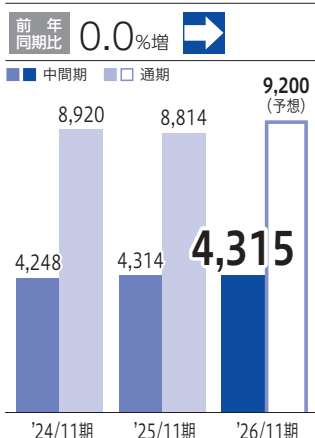
生産活動においては、市場の要望に柔軟且つ迅速に対応できる体制を確立、原材料については中東情勢の影響を強く受ける中、全社規模で調達に注力しお客様への当社製品供給に全力で対処致しました。

そのような状況の中、海外市場への積極的な展開を行った結果、シェアの拡大及び回復をすることが出来、売上を増やしました。更には円安効果も重なり利益を伸ばすことが出来ました。ゴム薬品は、海外向け及び中国現地法人の販売は堅調に推移しましたが、国内向け特殊用途製品の販売は低調に推移、全体では売上は前年同期を下回りました。樹脂薬品については、国内向け主要製品、特殊用途向け製品共に好調に推移、海外向けも特殊用途向け製品を中心に好調に推移、売上は前年同期を上回りました。中間体については、海外向けの販売は伸長しましたが、国内向けは一部売上を増やした製品もありましたが、需要が低迷し全体では売上は前年同期を下回りました。その結果、中間体全体では売上は前年同期を下回りました。その他薬品については、多くの製品で販売を増やしましたが、複数の特殊製品の需要が低迷、売上は前年同期を下回りました。

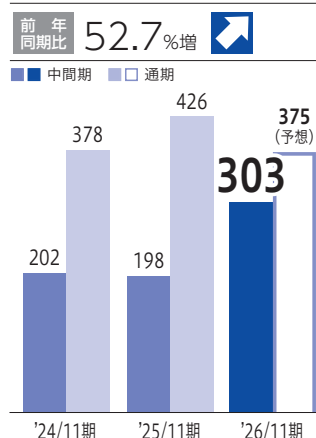
これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は43億15百万円（前年同期比0.0%増）、営業利益3億3百万円（同52.7%増）、経常利益2億85百万円（同55.6%増）、親会社株主に帰属する中間純利益2億9百万円（同55.6%増）となりました。

連結財務データ

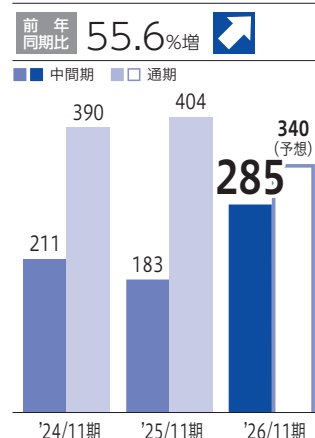
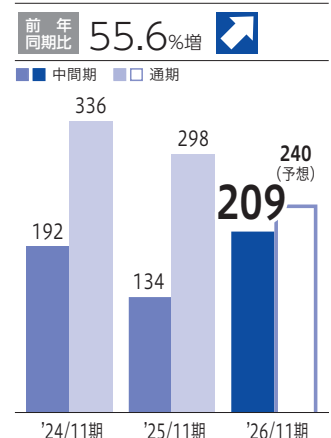
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



経常利益（百万円）

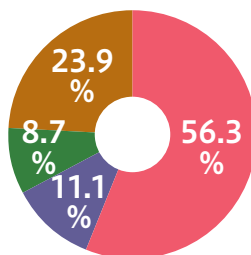
親会社株主に帰属する中間
(当期) 純利益（百万円）

部門別の状況紹介

部門別売上高構成比

- ゴム薬品
- 樹脂薬品
- 中間体
- その他

(不動産賃貸事業部門 0.4% 19百万円含む)



高付加価値製品の拡充と生産効率の向上を通じ、収益構造の強化を図り、売上高経常利益率の持続的向上に取り組んでおります。

化学工業薬品事業部門

ゴム薬品

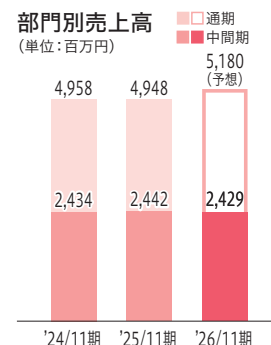
◎売上高24億29百万円（前年同期比0.6%減）

▶事業の紹介

タイヤやケーブルなど人々のライフラインを支えるゴム薬品、さらには、ヘルスケアに欠かす事が出来ない医療用ゴム製品への添加剤の提供を通じ人々の豊かな生活を守っています。

○当中間期のポイント

- ・国内の工業用ゴム製品は、汎用老化防止剤は販売を増やしたが、汎用加硫促進剤は需要が低調に推移、医療用ゴム製品向けも、特需が落ち着いたことにより、売上は減少した。タイヤ向けは、主力製品が需要の低迷により販売が減少し、一部特殊製品が生産販売中止となったこともあり、売上は、前年同期を下回る。
- ・海外向けは、汎用製品を中心に販売は増加、医療用途向け製品及び環境配慮タイプ製品の販売が再開。また、合成ゴム向け製品の販売も大きく増加し売上は増加。



樹脂薬品

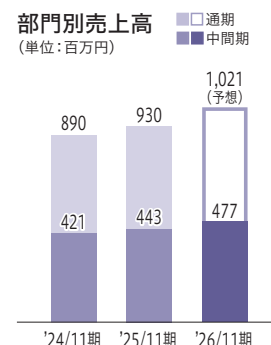
◎売上高4億77百万円（前年同期比7.7%増）

▶事業の紹介

世の中は省エネルギーに向けて進んでいる中、環境に配慮した高性能樹脂に置き換わりつつあり、そこに当社グループの樹脂薬品が使われています。また、当社が得意とする技術を生かし、ディスプレイなど成長著しい電子材料の添加剤を提供し、社会に貢献しております。

○当中間期のポイント

- ・国内向け主要製品の販売が増加。電子材料関連製品は、当社が得意とする合成技術を活用し特殊受託合成製品の販売が大幅に増加。
- ・海外向けは、主要製品は安価な海外品の影響を強く受け販売は減少したが、特殊用途向け製品の販売を増やし、売上は前年同期を上回る。



中間体

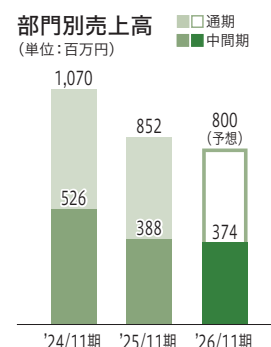
◎売上高3億74百万円（前年同期比3.6%減）

▶事業の紹介

農業や医療で必要とされる原料の提供を通じて人々の豊かな生活を支えています。

○当中間期のポイント

- ・農薬中間体の販売は大きく増加。
- ・医薬中間体では、脱水縮合剤の需要低迷により国内向けは販売が減少。海外品は販売が増加。
- ・界面活性剤中間体、染顔料向け製品は、顧客での需要が低迷し、売上は前年同期を下回る。



その他

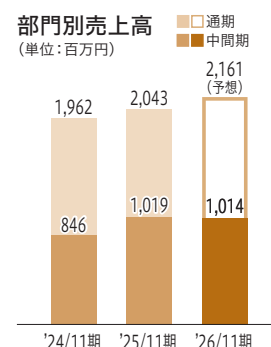
◎売上高10億14百万円（前年同期比0.5%減）

▶事業の紹介

環境用薬剤は家庭や企業などから出るゴミを焼却する際に発生する鉛や水銀を安全に捕集し、環境を守るお手伝いをしています。

○当中間期のポイント

- ・環境用薬剤において、顧客における需要の拡大と変化に迅速に対応したことにより販売は大幅に増加。
- ・新製品の販売は電子材料用途で海外向けを中心に拡販。
- ・特殊用途向けは、市場における需要が低迷し販売を減らした製品もあり、全体では売上は減少。



財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間 連結会計期間 2026年5月31日	前連結 会計年度 2025年11月30日
資産の部		
流動資産	6,485	6,371
固定資産	2,528	2,496
資産合計	9,014	8,868
負債の部		
流動負債	4,419	4,276
固定負債	1,299	1,458
負債合計	5,718	5,734
純資産の部		
株主資本	3,178	3,041
その他の包括利益累計額	117	91
純資産合計	3,295	3,133
負債純資産合計	9,014	8,868

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間 連結会計期間 自2025年12月1日 至2026年5月31日	前中間 連結会計期間 自2024年12月1日 至2025年5月31日
売上高	4,315	4,314
売上原価	3,412	3,512
売上総利益	902	801
販売費及び一般管理費	598	602
営業利益	303	198
営業外収益	7	7
営業外費用	25	23
経常利益	285	183
特別利益	2	－
特別損失	0	0
税金等調整前中間純利益	288	183
法人税、住民税及び事業税	45	41
法人税等調整額	32	7
中間純利益	209	134
親会社株主に帰属する中間純利益	209	134

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 自2025年12月1日至2026年5月31日	前中間連結会計期間 自2024年12月1日至2025年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,129	566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△138	△216
財務活動によるキャッシュ・フロー	△227	186
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△8
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	774	528
現金及び現金同等物の期首残高	1,212	744
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,987	1,273

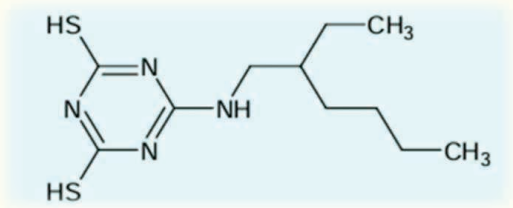
TOPICS

■新製品・高付加価値分野への展開

当社グループでは、培ってきた有機合成技術を活かし、新製品・高付加価値分野への展開を進めております。新たに開発した製品の提案・評価が進みつつあり、既存事業に加え、将来の成長を担う新規テーマの具体化にも取り組んでおります。今後も、お客様のニーズを踏まえた開発と市場展開を推進してまいります。

新たに開発した製品

《Actor MESH》



【主な用途】

- ・医療用ゴムに最適化された架橋剤
- ・銅の表面処理
- ・アルミと樹脂の密着性向上

特許 国内登録番号 第7520334号
国際公開番号 WO2024/009959A1

◆ケミカルマテリアルJapan出展



化学・素材分野の最新技術と製品が一堂に集まる、
日本最大級の専門展示会

結合技術が生み出す新たな価値ソリューションを展示会でPR

会社概要

設立 1937年1月11日
資本金 6億1千万円
従業員数 164名
営業品目
ゴム薬品 加硫促進剤、加硫剤、老化防止剤、加工助剤、
しゃく解剤
樹脂薬品 酸化防止剤、重合調整剤
中間体 染料料中間体、医薬・農薬中間体
その他 機能性化学品、その他各種工業薬品
事業所
本社 〒101-0047
東京都千代田区内神田二丁目8番4号（山田ビル）
本社事務所 〒332-0004
及び川口工場 埼玉県川口市領家四丁目6番42号
大阪営業所 〒550-0001
大阪府大阪市西区土佐堀一丁目3番7号
（肥後橋シミズビル）
主要な子会社
開溪愛(上海) 〒200336
貿易有限公司 上海市長寧区延安西路2201号
上海国際貿易中心1712室

役員

代表取締役社長	山田 秀行
常務取締役	萱野 高志
常務取締役	泉本 勝
取締役	安藤 博之
取締役	本間 義隆
社外取締役(常勤監査等委員)	宮本 浩士
社外取締役(監査等委員)	石上 尚弘
社外取締役(監査等委員)	鈴木 俊介

株式の状況

発行可能株式総数 4,000,000株
発行済株式の総数 1,217,361株(自己株式2,639株を除く)
株主数 1,832名

大株主

株主名	持株数	持株比率
山田化成株式会社	201,480株	16.6%
正喜商事株式会社	57,000株	4.7%
いずも産業株式会社	44,200株	3.6%
岩井コスモ証券株式会社	36,000株	3.0%
山田史郎	28,200株	2.3%
今川和明	25,600株	2.1%
楽天証券株式会社	25,600株	2.1%
三井化学株式会社	25,000株	2.1%
日新明弘テック株式会社	21,600株	1.8%
山田善大	20,650株	1.7%

(注) 持株比率は自己株式(2,639株)を控除して算定しております。

株主メモ

事業年度	12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主 確定日	11月30日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 名古屋証券取引所 電子公告により行う 公告記載URL
公告の方法	https://www.kawachem.co.jp/ (ただし、電子公告による事が出来ない事故、その他やむを得ない事由が発生したときは、日本経済新聞に公告致します。)

(ご注意)
株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店でお支払致します。

当社ホームページのご案内



ホームページは
こちら

<https://www.kawachem.co.jp/>
皆さまからのアクセスをお待ちしております!

 川口化学工業株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目8番4号 山田ビル
Tel 03-3254-8481(代表) Fax 03-3254-8497



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすい
デザインの文字を採用しています。

